

め

め

め 女(名)

唇音にして單子音の一つ。う音に續く時はみょうと發音する事多し。
動植物の性の一つ。なんな。……人にては女の字。獸にては牝の字。鳥虫草木にては雌の字を書く。

め 妻(名)

め 目(名)

「一」つま。●さい。〔二〕妾。

「一」動物の顔に二つ並び付きて物を見る用をなすもの。●まなこ。〔二〕見る事。●見ゆる事。○「人目」「よそ目」「三」物事の感じは目にて見る。こが最も強きもの故の實驗したる場合の意。○「苦しい目」「つらい目」

「四」同じ物の順序正しく並列せるもの。○「棋盤の目」「網の目」「物尺の目」「斤量の目」

「五」物の繋ぎの處。●結びの處。●境目の處。○「縫目」「替り目」「六」並びて。續きたるを數ふる詞。○「五軒目」「百年目」

食用となる海草の總名。○「若め」「荒め」「ひろめ」「みるめ」

海布。和布(名)

め 海布。和布(名)

め 芽(名)

草木の種。又は舊枝より發生したる枝葉。

め (助動)

め (助動)

め (助動)

め (助動)

め (助動)

め (助動)

め (助動)

め (助動)

め (助動)

め (助動)

め (助動)

め (助動)

め (助動)

め (助動)

「一」度。●方。○「扣へめ」「早め」「二」人を惡み罵りして云ふ詞。○「いづめ」「盗人め」(俗)

の變化。○「花こそ散らめ」「人に行かめ」「あらさらめや」

「一」いのち。●生命。〔二〕言ひ付け。●下知。●命令。〔三〕天運。●天命。

命(名)

銘(名)

功徳を頌して碑面などに彫刻する韻文。

「三」刀劍などに記す作者の名。

姪(名)

明白あきらかなる事。(形)——明白なる。(副)——明白に。

命日(名)

人の死したる紀念日。●忌日。

名望(名)

名譽と人望と。

面目(名)

めんぼくに同じ。○源氏「やりみつめいぼくさかしこまり喜び」

冥途(名)

死後人の魂魄の行く處。黄泉。●よみち。●あの世。

めいどう

鳴動(名) 鳴り動く事。△(動)―鳴動す。

めいどく

明徳(名) 徳の明かなる事。

めいり

名利(名) 名譽と利益と。

めいれ

明瞭(名) 明白。△(形)―明瞭なる。(副)―明瞭に。

めいわう

明王(名) 明天子に同じ。(源氏)

めいわく

迷惑(名) 判斷に迷ふ事。●困却。

めいか

名家(名) 「一」世間に名の聞えたる家柄。「二」名高き人。●大家。

めいよ

名譽(名) 多くの人に譽めらるゝ事。●よき評判。●はまれ。

めいれい

命令(名) 言ひ付け。●仰せ。●下知。△(動)―命令す。

めいげつ

名月(名) 太陰曆八月十五夜の月。

めいげつ

明月(名) 明らかに照る月。

めいげん

鳴絃(名) 惡魔を退くる爲弓の絃を引き鳴らす事。

めいふ

冥府(名) 冥途にありて死者の罪科を糾明する役所。其長官を閻魔大王と云ふ。

めいぶ

名簿(名) なづきに同じ。(宇治)

めいぶつ

名物(名) 其土地の名高き食品。

めいぶん

名分(名) 道理に叶ひたる名。

めいふく

冥福(名) 死人が冥途に於て幸福を受くる様にさ祈る事。●追善。

めいてい

酩酊(名) 物事の譯が分らぬ程酒に酔ふ事。△(動)―酩酊す。

めいてんし

明天子(名) 明徳ある天皇。

めいさい

明細(名) こまかに明らかなる事。●細密。△(動)―明細なる。(副)―明細に。

めいさん

名産(副) 名高き産物。●名物。

めいき

名義(名) 「一」名とするものの義理。「二」名稱の意味。

めいめい

銘銘(名) 誰も／＼。●おの／＼。●各自。(又)―めい／＼に。△(形)―めい／＼。(又)―めい／＼の。

めいめい

冥々 くらき有様。(形)―冥々の。(副)―めい／＼に。

めいめい

名刺(名) 姓名を記したる小さき紙。●名札。

めいし

名詞(名) 語學上の詞。物事の名をあらはす詞。

めいし

名所(名) 「一」有名なる土地。「二」其物の部分の名稱。○「兜の名所」「弓の名所」

めいし

名勝(名) 景色のよき土地。●名所。

めいし

名勝(名) 景色のよき土地。●名所。

めいしよう 名稱(名) 名。●さなへ。めいじやう 名狀(他動サ變) 物事の狀態を言ひあらはす。

らはす。

めいししゅ 醴酒(名) 甘味の酒。

めいひつ 名筆(名) 名高き書。●達筆。●能筆。

めいびん 明敏(名) 物事にすばしこき事。△(形)―明敏なる(副)―明敏に。

敏なる(副)―明敏に。

めいもく 瞑目(名) 〔一〕目を閉づる事。〔二〕死ぬる事。

……△(動)―瞑目に。

めいせん 銘仙(名) 織物の名。蠶の口より出したるまゝの細き絲にて織りたるもの。

の細き絲にて織りたるもの。

めいず 命(他動サ變) 言ひ付くる。●仰せ付くる。●命令する。

命令する。

めいすう 命數(名) 運命。

めらう 女郎(名) 女を卑しめて云ふ詞。●小女。

めばる 芽張(自動四段) 芽の張り出る。

めはな 目鼻(名) 目と鼻と。

めばえ 芽生(名) 草木の種より芽の出づる事。

めぼく 面目(名) めんほくに同じ。

めど 耆(名) 草の名。鋸葉にして花は夏咲くもの。莖は四五尺に生長し八卦の簾竹に作らる。

めど 目處(名) 目を付けて居る處。●日當。●目的。

めど (名) めんだうの略。古今めどに削花させりけるをよませ給ひける。

るをよませ給ひける。

めどる 娶(他動四段) 妻を迎ふる。●嫁に貰ふ。●妻さなす。

さなす。

めどほり 目通(名) 貴人の面前に出づる事。●おめどほり。●拜謁。

ほり。●拜謁。

めだう 馬道(名) 禁中の仁壽殿、承香殿、常寧殿、溫明殿、後涼殿、弘徽殿にある長板の稱。簀子より續きて庇、母屋を貫き通行する様に作れる道。●めんだう。

殿、後涼殿、弘徽殿にある長板の稱。簀子より續きて庇、母屋を貫き通行する様に作れる道。●めんだう。

り續きて庇、母屋を貫き通行する様に作れる道。●めんだう。

る道。●めんだう。

めだふ 女踏歌(名) めんな踏歌に同じ。

めどき 簾(名) 簾竹に同じ。

めどろ 目路(名) 視線の向ふ道。●目の行く方。●目の及ぶ處。●目先。○和泉式部集「ながむれどめちにも霧の立ちぬれば心やりなる月だにも見す」

及ぶ處。●目先。○和泉式部集「ながむれどめちにも霧の立ちぬれば心やりなる月だにも見す」

どめちにも霧の立ちぬれば心やりなる月だにも見す」

目近(形。形狀言ク活) 目の前に近き。

に近き。

めてふ 雌蝶(名) 紙にて折りたる蝶の形。雌蝶と共に婚禮の時の銚子などに飾

の形。雌蝶と共に婚禮の時の銚子などに飾



めり

(助動ヲ變)

り附くるもの。(圖)

●そうな。○源氏「此頃はさやうの御振舞に包み給ふめり」後撰「飛鳥川淵瀬にかはる心こは皆上下の人も戀ふめり」(二)少し

艶を持ちたる詞。趣である。○後撰「我宿の庭の秋萩散りぬめり後見ん人や海やしと思はん」新古今「見るまゝに山風いたく時雨るめり都も今や夜寒なるらん」

馬寮(名)

左馬寮右馬寮の總名。

(自動四段)

地が陥る。

めりこむ

(副)

物の崩れ、こはれ、又は焼くる音。(又)

めりめりこ。

めぬき

目貫(名)

刀の目釘に刺す金具。

める

(自動四段)

音楽上の調。かるの反對にて。音調が程度より低く下る。

める

(助動)

めりの變化。○「行くめる人」袖ぞ濡るめ

めおや

(女)

夫婦。

めわたる

女親(名)

をんなおや。母。

めわたる

目渡鳥(名)

目前を飛び行く鳥。○古歌

めか

(名)

「よしあしに心ひかれて朝夕の目渡る鳥の行方知らずも」

めかり

和布刈(名)

和布を刈る事。又は刈る人。

めかりのじんじ

和布刈神事(名)

豊前の國早瀬明神にて十二月除夜の夜半に行はるゝ神事。神主

手に鎌と松明さを持ちて海中に入り和布を刈り歸りて神に奉るもの。

めがる

目離(自動下二段)

見る事又は逢ふ事の遠ざかる。●目を放つ。

めかるかはづ

(句) 眠なき聲に鳴く蛙。(夫木)

めかがやく

目耀(自動四段)

目もきら／＼するほど照り光る。

めかた

目方(名)

物の重さ。●實目。●重量。

めかつら

女桂(名)

木の名。葉は丸きものと狭きものと廣きものと三種あり。實は櫟の實に似る。●敷肉桂。

めかつら

目懸(名)

小兒顔具の名。目の處に當つる紙製の假面。

めがね

眼鏡(名)

兩眼に掛けて物を見る鏡。

めがね

(名)

妻と豫定する女。●未來の妻。

めかく

目掛(他動下二段) 絶えず目をそいぐ。●れんがくる。●注目する。

めかくし

目隠(名) 「一」目の見えぬやうに蔽ふ事。「二」小兒の遊戲の名。鬼になりたる人手拭にて目を隠し目くらまぐりに人を追ひ廻し其捕へ當てたる人を又鬼にするもの。

めかけ

妾(名) 目を掛けて愛するといふ意。◎せう。●權妻。

めかかう

(名) 指の先にて下まぶたを押さへ目の中の赤き處を出す事。小兒をおとし又はいやいやの意を示す時にするもの。(大鏡)

めがみ

女神(名) 「一」女性の神。「二」時には伊弉册尊。女髪長(名) 尼の異名。伊勢の忌詞。(延暦儀式帳)

めかも

(助動) 反語の詞。んやは。○古今序「古へな仰きて今を戀ひざらめかも」

めかす

(他動四段) 「一」めきたるやうにする。●らしくする。「二」身の裝飾をする。●しられる。●やつす。

めたりがほ

(名) めだれ顔に同じ。

めだか

目高(名) 魚の名。淡水に産する一寸以内の小

めだたし

魚にして目殊に高く突出せるもの。

めだれがほ

目立(形。形状言シク活) 目に立つ有様。(名) 卑怯素練の體裁。△(形)「めだれがほの。○謡曲「めだれ顔の振舞は臆病の至(さ)又」」めだれ顔なる。○謡曲「めだれ顔なる夜討はするとも」

めだつ

目立(自動四段) 特別に見ゆる。●目に付く。●目に立つ。

めたう

めその處にあり。眼珠(名) 目の中の黒玉。●まなこ。

めだま

雌竹(名) 華細く葉の大なる竹。

めだけ

(助動) めりの變化。○「いふめれば」花こそ散るめれ。めめひ。目結を見よ。

めぞめ

目染(名) 美以美(名) 基督教新教の一派。

めづ

愛(他動下二段) かわいがる。●いさしがる。●大事にする。●賞する。●賞翫する。

めつにち

滅日(名) 滅門に當る日。

めつばう

滅亡(名) 消えて無くなる事。●ほろぶる事。△(動)「滅亡す」。

めつど

滅度(名) 釋迦の死去。(佛教)

めったに

滅多(副)

「一」むやみに。●非常に。「二」容易には。……打消の助動詞と伴ふ。○「めったに出来ぬ」

めづら

珍

珍らに同じ。(形)「めづらなる。(副)「めづらに。(雅)」

めづらか

珍

珍らしき有様。(形)「珍らかなる。(副)「珍らかに。」

めづらし

珍(形。形狀言シク活)

類の少なき。●稀なる。

めつけ

目付(名)

武家時代の役名。現今の警察官の如き職掌。

めつけばしら

目附柱(名)

能舞臺の名所。向ひて左の前の角の柱。

めつこ

愛子(名)

愛する子。●いとし子。(萬葉)

めつき

日付(名)

目の様子。●めざし。●まなざし。

めつき

滅金(名)

金又は銀を他の金屬の上に焼き付くる事。

めつきぐす

滅却(自動サ變)

はるびて無くなる。●死ぬる。

めつもん

滅門(名)

層にて惡目の稱。●滅日。

めつす

滅(自動サ變)

はるぶる。

めなる

目馴(自動下二段)

めならぶ

目並(自動四段)

目前に並ぶ。●目前に多くある。○續後拾遺「いかにせんつらき心の花がたみめならぶ人に移る契を」

めならす

目馴(他動四段)

めらめら

目に見馴らす。●常に見る。

めん

雌(名)

めん

面(名)

「一」顔。「二」表面。「三」舞樂、能樂、神樂などにて被る假面。「四」擊劔の時顔を被ふもの。

めん

麵(名)

小麦の粉にて製したる饅飩素麵などの總名。

めん

綿(名)

木綿。

めんらう

面廊(名)

座敷へ行く處の廊下。(談韻)

めんばこ

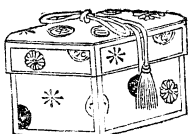
面箱(名)

「一」能面を入れる箱。「二」能樂翁を演ずる時面箱を舞臺に持ち出づる役者。

めんぼほ

面頬(名)

陣中にて面部を被ふ爲めの鐵製の假面。(圖)



めんぼう

麵棒(名) 饅籠など押し延ばす

ための丸き棒。

めんぼく

面目(名) 〔一〕人に合はす顔。

〔二〕名譽。●榮譽。



めんだう

面倒(名) 煩はしく手数のかゝる事。●△

(形)―面倒なる。

めんだう

(名) 馬道に同じ。

めんよう

(名) あやしき事。●不思議。●奇體。△(形)

―面妖。(俗)

めんざう

眠藏(名) ふしど。●寢室。○謔「眠藏の室

に入るぞ見えし」

めんつう

面桶(名) 飯を盛りて饗ふる曲物形の器。

めんくわい

面會(名) 顔を合はせて逢ふ事。●對面。●

面晤。△(動)―面會す。

めんご

面晤(名) 面會に同じ。

めんえき

免役(名) 賦役、徴兵、徴役などを免する事。

△(動)―免役す。

めんきょ

免許(名) 〔一〕政府より其事を許す事。●官許。

〔二〕藝術の師より特別に秘傳を授くる事。

△(動)―免許す。

めんめん

面面(名) おの／＼。●銘々。

めんめん

面々に(副) おの／＼にて。●めい／＼に。

めんみつ

綿密(名) 細かく念の入る事。●精密。●

緻密。△(形)―綿密なる。(副)―綿密に。

めんじやう

免狀(名) 免許の書付。●免許狀。

めんしき

面識(名) 顔を見知る事。●免職(名) 職務を免する事。●解職。

めんしき

面識(名) 顔を

めんぜん

面識(名) 顔を見知る事。又見知りたる人。

めんせん

面識(名) 顔を

めんせき

面識(名) 顔を

めんす

免(他動サ) ゆるす。

めうつし

目移(名) 目の付け處を他に移す事。

めうへ

目上(名) 己れより貴き人。●年長の人。●高

めうし

位の人。●學識の優れたる人。

めうし

牝牛(名) 女性の牛。

めうし

乳母(名) 〔一〕幼児に乳を飲ます爲めの屋

女。●うば。〔二〕轉じては幼児を養育教訓

めうし

する役の家臣。●附役。●もりやく。

めうし

乳母子(名) めのこの子。

めうし

女童(名) 〔一〕女の子供。●童女。●少女。

めうし

瑪瑙(名) 礦物の名。水晶の一種にして質堅く

美しき模様あるもの。

めのこ

女子(名) 「一」なんな。●ななこ。「二」女の子。

●むすめ。

めのこぞん

目子算(名) 器械を借らずにする勘定。

めく

(自動四段) らしく見ゆる。○「春めく」人めくし

めぐり

廻(名) 「一」めぐる事。「二」周回。●まはり。

(三)月經。

めぐり

旋(名) 雅樂にて五音の規則立ちたる配合の

稱。其種類を大別して律旋、呂旋の二とす。

めぐりあふ

ガ
リ

廻逢(自動四段) 久しく逢はざる人に不

意に出逢ふ。

めぐりみづのどよのあかり

(名) 曲水の宴。(公事根源)

めぐる

廻(自動四段) 「一」まはる。●輪のやうに進む。

「二」物の周りを取り圍む。「三」次より次へ

と順に至る。

めくは

(名) めくはする事。

めくはす

(自動下二段) 目づかひにて意中を知らする

●目の合圖する。

めくそ

目糞(名) めやに。(俗)

めくら

盲(名) 目の見えぬ事。又は其人。●めしひ。

めくらべ

目競(名) 相對して睨み合ふ事。●にらみく

ら。

めぐらふ

廻(自動四段) めぐるの延音。

めぐらよみ

盲曆(名) 文字知らぬ人にても見らるゝ

やうに繪にて示したる曆。昔し南部地方な

どにて行はれたるもの。

めぐらこぜ

盲御前(名) 客に呼ばれて琴三味線など彈

くを業とする盲の女。

めぐらしんぎ

う 盲心經(名) 盲曆の如き趣向にて

心經(佛書)を書きたるもの。

めぐらじま

盲編(名) 布の縫にて染めたるもの。

めぐらしづみ

廻文(名) 連名にて順次に廻し讀むやう

にしたる手紙。●廻狀。●回章。

めぐらす

廻(他動四段) まはす。●まはらす。

めぐむ

萌(自動四段) 草木の芽が出る。●もゆる。

めぐむ

惠(他動四段) 「一」愛しいつくしむ。「二」愛す

る心より物を與ふる。

めくぎ

目釘(名) 刀の柄の拔けざるやうに打ち付けた

る釘。

めぐみ

惠。恩(名) なまけ。●恩。●慈悲。

めくし

(形。形狀言ク活) 愛らし。●いさほし。○萬葉

「父母を見れば慕し。妻子見ればめぐしうつ

くし

めくせ

目癖(名) 目の癖。●見る習慣。

めぐすり

目薬(名) 目に差す薬。

めや

(助動) 反語の詞。『んやに同じ。○古今「紅の初

色染の色深く思ひし心われ忘れめや」

めやに

目脂(名) 目より出づる粘液。●目薬。

めやす

目安(名) 〔一〕目標。●標準。〔二〕見出しに設

けたる目録の類。

めやすし

目易(形。形狀言ク活) 容易。●難無し。●

見苦しく無し。

めまひ

眩暈(名) 俄に目のくらむ事。

めまつ

雌松(名) 女性の松。

めまぐるし

(形。形狀言シク活) 目前に物の來りて變

陶しき有様。

めまぐるひ

妻寛狂(名) 狂氣する程熱心にて妻を搜

めまじろき

す事。(空穩) またいき。●まばたき。

めぶ

馬部(名) 厩の舍人。

めぶなり

目分量(名) 目にて見積りを立てたる

分量。

めこ

妻子(名) 〔一〕妻と子。●さいし。〔二〕轉じて

めで

馬手(名) 〔一〕右の手。〔二〕右。●右の方。

めで

愛(名) 愛する事。●寵愛。○萬葉神ならめて

めでたし

の盛に」 (形。形狀言ク活) 〔一〕愛すべし。●愛らし。

●賞すべし。●結構な。●よろし。〔二〕祝

ふべし。●えんぎのよき。……俗に日出度の

字を用ふ。

めでくつがへる

(他動四段) 甚しくめづる。(雅)

めでざし

馬手差(名) 馬手に差す短刀。

めでゆする

(他動四段) 響き渡りてめづる。(雅)

めでしる

(他動下二段) 愚痴になるほど甚しくめづる

(空穩)

めあはります

妻(他動下二段) 妻とする。●嫁入らする。

めあて

目當(名) 目の當てどころ。●目的。

めざに

(副) 目早く。(雅)

めざし

(形。形狀言ク活)

〔一〕よく目の付く。〔二〕目

の覺め易き。

聽(他動四段) 入れ墨の刑罰に行ふ。

めづまし

目醒(名) 小兒の朝起きたる時に興ふる菓子。

めづめづし

(形。形狀言シク活) 「一」眠たき目が覺むる程である。●あきるゝ程である。●驚く程である。●「二」あるまじき事なりと憤る有様。

●以ての外なりと怒れる有様。○源氏「めさましきものにおとしめそれみ給ふ」

めづめづし

目醒草(名) 「一」眠氣を醒す程の材料。「二」時には茶。

めづし

目刺(名) 其目を藁又は竹にて貫き通したる干魚。

めづし

目刺(名) 「一」目を刺すほどに短かく垂れたる童女の額髪。○袂衣「めさしなる御ぐしな切にかきやりつゝ」「二」又は其年の頃十一二の少女。○夫木「紀の國の名草の濱に貝拾ふ海士のめさしのおさななりせば」

めづし

目差(名) 目付。芽差(自動四段) 芽が出る。●芽ぐむ。

めづす

目指(他動四段) 目的とする。●目がける。●

めづき

目利(名) 鑑定。又は之に熟したる人。

めづみ

妻君(名) 妻の尊稱。●鼻様。●全園。

めづみ

目結(名) 鹿子染の古名。●目染。○「目結の小」

めづみ

女女し(形。形狀言シク活) 女らし。●氣弱し。目見ぬ(名) 「一」御目に懸る事。●拜謁。「二」始めて拜謁する事。●初見參。

めづし

飯(名) 「一」米、麥、粟などの炊きたるもの。○「米の飯」「粟の飯」「麥飯」「二」食事。

めづし

召(名) めす事。

めづし

目代(名) めくら。もくだいに同じ。

めづろ

目白(名) 小鳥の名。驚に似て目の周圍に白き輪あるもの。

めづる

召取(他動四段) 「一」召し寄する。「二」罪人を捕ふる。●捕縛する。●逮捕する。

めづり

目尻(名) 目の末端。●まじり。●まなじり。目印(名) 目に付き易からしめんための印。

めづか

(名) 魚の名。鱧の一種にして味淡泊なるもの。召使(名) 召して使ふ男女。●下女下男。

めづき

召次(名) 「一」客の取次をする事。又は取次

を爲す人。〔二〕院懸の女官。取次などをする役。

めしうど 囚人(名) 捕へたる人。●罪人。●捕虜。

めしうど 召人(名) 〔一〕召使の女。〔二〕妾。

めしあがる 召籠(他動下二段) 召し入れて籠め置く。

めしあがる 召上(他動四段) 食し給ふ。

めしあぐ 召上(他動下二段) 〔一〕召し出す。〔二〕官へ取り上ぐる。●没取する。

めしもり 飯盛(名) 旅宿などにて客の飯を盛る女。呼ばれて寢席に侍するもの。

めしもの 召物(名) 〔一〕衣服の敬語。〔二〕食物の敬語。

めい 〔三〕乗物の敬語。〔四〕買物の敬語。

めい めいの處にあり。

めもはるに 目も遙に(副) 見るも遠く。○和泉式部集

「めもはるにかく村雲は隔つともおしはかりには思ひおこせよ」

めもり 目盛(名) 〔一〕目にて積りたる大凡の分量。

〔二〕物尺、秤などの目を記す事。

めまうけ 妻設(名) 妻を娶る事。(榮花)

めもあやに (副) 〔一〕目も、いやくほど。●目も及ばぬほど。○空穂「近うて見給へば人々の御

めもあやなる

めす 雌牝(名) 召(他動四段)

人な。〔二〕着給ふ。●招集し給ふ。……

が。……飲食物を〔四〕乗り給ふ。……車、

輿、駕籠、舟などに。〔五〕十分身に入れ給ふ。

給ふ。○萬葉「神岳の山の紅葉。今日もかも訪ひ給はまし。明日もかもめし給はまし」

